**「ともにきるをえる」７．２６アピール**

**～だれもがそのらしくらすことのできるのにむけて～**

　「なんていなくなればいい」「はをみすことしかできない」というえ（）をいだいたにより、のある19のがうばわれ、27がつけられたやまゆりからがたちました。

この、なぜこのようながきてしまったのか、やまゆりをどのようなでつくりなおすがあるのか、とこのようなをこさないためには、どのようなりみがなのかをえてきたでした。

　、にいるたちやそのは、はじめからしてをえらんだわけではないといます。でらしつづけるためにながえられず、からのやにいつめられ、がになって、やむなくにるしかなかったのではないかといます。

　126のアピールで、たちはに、のをすることなくやまゆりをつくりなおすをめないでほしいというをしました。

のをにあらわすことがしいたちにとって、やのをくことはです。でものは、かならずしものとじとはりません。

これはのないのでもじです。のあるなしにかかわらず、はさまざまなをしながらし、いろいろなのからのをんでいきます。

ところが、のあるたちは、さまざまなことをする、どのようながあるかをるがないにおかれています。

それでもとともに、のありやなどもわり、のでらせるやしくみがえてきています。

いままででらすことはできないとわれていたたちも、でのらしができるかもしれないのです。ひとりのをするためには、でのいろいろならしをして、そのにあったらしをべるようにしていくことがです。

そのについて、はの３に「ガイドライン」をしています。ガイドラインでは、どのようなに、どのようなやりでそののをするがあるかしています。ひとりのを、ガイドラインにそって、ていねいにしていくがとえます。

のあるたちがのらしを、でべるになってはじめて、「ともにきる」になったとえます。をあげてそうしたりみをすすめることこそが、あのろしいでわれ、つけられたをにすることにつながるのではないでしょうか。

は2014に「」をむすびました。「」というのは、のあるたちのをることについてでめているです。そのがめば、し、にするがあることをしたものです。

そののには、のあるひとりが、と、どこで、どのようにらすかをすることがとしてめられていること、そのをするためになサービスをけられることがかれています。

が、のあるたちをからざけてしまうにならないように、これまでもありのがおこなわれてきましたが、までに、そのありがわれています。

　が「ともにきるかながわ」にかかげている「だれもがそのらしくらすことのできる」をして、「のあるたちとともにきる」をつくるをすることがめられています。

ここにまるすべての、このにしたくのたちが、のさんとをたずさえて、それぞれので、いっしょうけんめいにすることを、ここにいます。

29726

「ともにきるをえる」・